

## 國際天文同盟第6回總會

### 〔決議事項〕

#### 實行委員會

各委員會ノ委員長ハ特別ナ問題ヲ取り扱フタメ其ノ委員會中ニ新シク小委員會ヲ組織スル權能ヲ有ス。此ノ小委員會ノ委員ハ其ノ小委員會ガ屬スル委員會ノ委員タル必要ナシ。但シ本同盟ノ何レカノ委員會ニ屬セザル者ハ、規約ニ從ツテ委員會委員ニ互選セラレザル限リ、小委員會ノ委員會タルコトヲ得ズ。(以上、8月9日)

#### 第3委員會〔符號〕

委員會ハ別記ノ如キ符號表ヲ採用スルコトヲ總集會ニ出願スルニ決ス。(以上、8月9日)

#### 第5委員會〔研究論文及ビ文獻〕

1) Bibliographie Mensuelle (文獻月刊)ヘノ補助金ヲ100ポンドカラ150ポンドニ増スコトヲ望ム。

2) 本委員會ガ聞ク所ニヨレバ、ベルギー國委員ハ Houzen-Lancaster 文獻ト Jahresberichte トノ間隙ヲ補フタメ故ストロバン博士ガ實行セシ事業ヲ繼續スルタメ Pelzener 博士ヲ援助スルコトトセル由。本委員會ハ喜ンデ此ノ事業ニ關シテ Pelzener 博士ヲ援助シ支持ス。

3) 本委員會ハ天文學的文獻ノ分數法トシテ十進法ノ使用ヲ薦ム。

4) 本委員會ハ、古昔ノロシアノ記録中ノ天文部ヲ譯スルニ必要ナル方法ヲ探ルタメ、マコミク天文臺ノヴソツキ教授ヲ任命ス。

5) 本委員會ハ、天文家及ビ天文臺ノカド記録ヲ作ルコトヲラウンド天文臺ニ依頼ス。

6) 本委員會ガ聞ケル吉報ニヨレバ、ポツダム天文臺ノ H. フオン・クリウバ博士ハエジプト學ノ專門家ト協力シツ、古代ノエジプト天文學ヲ研究スル計畫ノ由。

7) 本委員會ハ、天文學史上ノ諸問題ノ小目錄ヲ作製スルニ決セリ。此ノ小目錄ガ出來ノ上ハ、諸學者及ビ文士等ニ其レヲ配布スル筈ナリ。

8) 本委員會ハ、London ノ Royal Society ト協力シテ、成ルベク1942年マ

デニ、Isaac Newton ノ學術的書簡ヲ編纂發行スルコト、ス。(以上、8月9日)

#### 第4委員會〔天體曆表〕

1) 本同盟ハ主要國ノ天體曆ヲ其ノ使用年ヨリモ少ナクトモ2年前ニ發行センコトヲ望ム。

2) Gauss 恒數 K ハ 0.01720 20989 50000 トス、但シ時間ノ單位ハ紀元 1900.0年ノ時ノ平均太陽時ヲトル。

3) 本同盟ガ獲タル吉報ニヨレバ、Peter 教授及ビ Comrie 博士ガ各秒角ニ付イテ作製セル三角函數4種類ノ8桁表ハドイツ政府ガ發行スル由、8桁表ト同様、7桁表モ重要ニシテ、尙8桁表以上ニ有用ナルユエ、上記2氏ノ作製セル7桁表ハ宜シク英國政府ガ發行スルヨウ熱心ニ希望ス。(以上、8月8日)

#### 第4(天體曆表)、第8(子午線天文學)、第20(小遊星、彗星、衛星)委員會聯合

1) 紀元1940年初ヨリ、時刻觀測又ハ無線報時ニ關スル星ノ位置ハ、F. K. 3系ヲ基礎トスルコト。

2) 現代ノ恒星目錄ハ多ク、毎年歳差ト共ニ、所謂永年變化(即チ毎年歳差ノ百年間ノ變化)ヲ記載ス。將來ハ、紀元 1950.0ヲ基本トスル恒星目錄中ニ、時刻(時刻Tハ百年ヲ單位トス)ノ第2次頁ヲ、恰モカノ第3次頁ト同様ニ附記スベキモノトス。即チ、

$$\frac{1}{6} \frac{d^3\alpha}{dT^3} \quad \text{及ビ} \quad \frac{1}{6} \frac{d^3\delta}{dT^3}$$

ノ如キモノヲ加フルヲ要ス。結局、

$$\alpha = \alpha_0 + \frac{d\alpha}{dT} \cdot T + \frac{1}{2} \frac{d^2\alpha}{dT^2} \cdot T^2 + \frac{1}{6} \frac{d^3\alpha}{dT^3} \cdot T^3$$

$$\delta = \delta_0 + \frac{d\delta}{dT} \cdot T + \frac{1}{2} \frac{d^2\delta}{dT^2} \cdot T^2 + \frac{1}{6} \frac{d^3\delta}{dT^3} \cdot T^3$$

故ニ

$$\frac{1}{2} \frac{d^2\alpha}{dT^2} = 50v_\alpha \quad \text{及ビ} \quad \frac{1}{2} \frac{d^2\delta}{dT^2} = 50v_\delta$$

3) 恒星目錄ノ作製者ハ、各頁ノ下部ニ、歳差ノ項ノ形式ヲ明瞭ニ記載説明シ置クベキモノトス。(以上、8月4日)

#### 第6委員會〔天文電報〕

本委員會ハ、天文電報中央局ニ對シ、尙フ3ヶ年間、毎年 1200 金フランツ、

ノ資金ヲ交付セラレンコトヲ望ム。(以上, 8月9日)

#### 第9委員會〔天文器械〕

新シキ光學部品ヲ用フル天文用ノ器械ノ設計者ハ、其ノ用材ノ分散率、光學面ノ曲率、レンズ間ノ厚サ及ビ距離、アベラシオン及ビ光度性等、構造上ノ詳細ヲ發表シ、他ノ批評研究ヤ、同様ナ器械ノ製作上ニ便利ヲ與ヘラレタシ。(以上, 8月6日)

#### 第10委員會〔太陽黒點及ビ太陽活動指示數〕

1) “Bulletin for Character Figures of Solar Phenomena” ト云フ表題ヲ “Quarterly Bulletin on Solar Activity” ト變更ス。

2) 今後ハ太陽像ノ中央部ニ關スル數値ヲ省キ、只、太陽全面ニ關スルモノミハ當分尙ホ存續シテ、統計研究者ノ使用ニ委ス。

#### 第11委員會〔紅焰現象〕

本委員會ハ、直接寫眞又ハ分光太陽寫眞ニヨリ紅焰ノ活動寫眞撮影ヲ獎勵シ其レニヨツテ、各個ノ天文臺ニヨリテナスヨリモ長期ニワタリ此ノ種ノ現象ノ發展ヲ示ス便ヲ獲ントス。(以上, 8月9日)

Meudon 及ビ Arcetri 兩天文臺ニ於テ Cartes synoptic de la chromosphère solaire 及ビ Immagini spettroscopiche del bordo solare ヲ發行スルタメ、前ノ總會ニ於イテ採擇サレタル3000金フラン及ビ1500金フラン其レ々ヲ尙後更ニ3ヶ年間ニワタリ毎年交付ヲ繼續サレンコトヲ、本委員會ハ希望ス。(以上, 8月9日)

#### 第12委員會〔太陽輻射〕

本委員會ハ多數ノ原子轉移ノ場合ノ振動力決定ノ天體物理的重要性ヲ主張シ、此等ノ觀測ニ、物理學者ノ協力ヲ望ム。(以上, 8月5日)

本委員會ハ、ユトレヒト天文臺ニ於テ波長  $\lambda$  3300—8900間ニワタリ Wilson 山ノ寫眞ニヨリ總テノ Fraunhofer 線ノ プロフィールヲ表ハス太陽光度アトラスノ作製ノタメニ、同盟ヨリ2000金フラン(餘分ハオランダ理學會ニテナス)ノ補助金ヲ交付セラレンコトヲ望ム。コレハ、太陽物理學者ノミナラズ、總テノ天體物理學者ニモ極メテ有用ナル出版ニシテ、同盟ヨリ出來ルダケノ支持ヲ希望ス。又、コノアトラスハ無代ニテ總テノ天文臺ニ配布セラレル筈ナリ。(以上, 8月6日)

#### 第14委員會〔標準波長及比太陽スペクトル表〕

1) 紀元1935年=國際度量衡委員會ニテ採用サレタル標準波長ヲ我が國際天文同盟ニ於イテモ採用シ、從テ1925年ノ決議ヲ取り消スコト、

2) 假報告書中ノ第1第2兩表ノ第1頁ニアル紫外鐵線ノ7桁數値ヲ波長ノ第2次標準トシテ採用ス、

3) 同第5表ノ第2頁ニアル赤外太陽線ノ7桁數値ヲ太陽スペクトル標準トシテ追加採用ス、

4) 同第7表ニアルスペクトル線ノ解説符號、及ビ Physical Review 誌第33卷第900頁(1929年)ニアルスペクトル符號ヲ採擇ス、但シ下ノ如ク變更ス:

A=オングストロム、國際波長單位、 (以上、8月5日)

#### 第19委員會〔緯度變化〕

1) 木村博士ハ未ダ1931.0—1936.06間ノ極運動ノ決定値ヲ發表セザル故、本委員會ハ同盟方此ノ出版ノタメ 350 ポンドノ特別補助金ヲ交付センコトヲ希望ス、

2) Carnera 教授ノ主裁スル中央局ノ事業ニ恒常ノ補助金ヲ要求ス、

3) Carnera 教授ガ觀測整理ニ熱心ナルヲ記録シ謝意ヲ表ス、(以上、8月9日)

#### 第18委員會〔經度〕

本委員會ハ1933年度ノ國際經度觀測報告ノ第1第2部ヲ検査セリ、

本委員會ハ上記ノ報告作製及ビ發行ノタメニ必要ナル資金(160000佛フラン)ヲ時刻中央局ニ供セラレタル佛國政府ニ謝意ヲ表ス、

本委員會ハ觀測ニ協力セル71ヶ所ノ觀測所ノ報告ヲ同様ノ形式デ引續キ發表サレンコトヲ望ミ、今後3年間、天文同盟及ビ測地學地球物理學同盟ノ兩者ニ於テ毎年3750金フランヲ聯合委員會長ニ交付セラレンコトヲ望ム、

コレニヨリ、1933年度ノ國際觀測ニ參加セル71ヶ所ノ觀測所ノ經度ガ決定スルコトトナル、

尙ホ、1926年ト1933年ト、兩度ノ觀測ノ比較ニヨリ、經度ノ變化ガ認めラレザル故、本委員會ハ今後10年乃至15年以内ニ又々此ノ種ノ觀測ヲ行フ必要ヲ認めズ、(以上、8月9日)

#### 第20委員會〔小遊星、彗星、衛星〕

同盟ハ Leuschner 教授ノ優秀ナル Research Surveys of Minor Planets ノ研究ヲ繼續セラレンコトヲ望ム。(以上, 8月9日)

### 第22委員會〔流星, 黃道光〕

1) 佛國政府ハ Chinguetti 大隕星(Adrar地方)ノ探險ヲ再ビ行ハレンコトヲ望ム。

2) 南半球ノ天文臺, 例ヘバ New Zealand ノ一天文臺ノ如キ, 過去ニ經驗ヲ有スル所ニ於テ, 流星觀測ヲ獎勵セラレンコトヲ望ム。(以上, 8月4日)

### 第23委員會〔寫眞星圖〕

寫眞目錄ノ發行ノ遲延ハ, 天空研究ノ一部ヲ不便ニシ, 尙, 他ノ天文臺ノ寫眞目錄ノ利用上ニモ迷惑ヲ與フル故, 本委員會ハ特ニ Victoria, New South Wales, Mexico 三國ノ政府ガ各々其ノ天文臺ニ充分ナル資金ヲ供給シ, 其ノ分擔セル寫眞目錄ヲ遲滯ナク發表スルヤウ同盟ヨリ督促スルコトヲ望ム。(以上, 8月6日)

1) Potsdam ト Rio de Janeiro 兩天文臺分擔ノ寫眞目錄ハ Hyderabad, Edinburgh, Oxford ノ三天文臺ガ代行シテ, 7卷ノ目錄ヲ發行スル筈ナルガ, 同盟ヨリ支給スル資金不足ノタメ, 1932年ノ總會ニテ決議セル通り毎年 300 ポンドヲ續ケテ支給サレンコトヲ望ム。

2) Hyderabad, Edinburgh, Oxford ノ三天文臺カラ發行サレル寫眞目錄ハ先ヅ次ギノ順序ニ發表サレル筈ナリ。

1° Hyderabad 天文臺デ, 北37°帶ノ印刷完成

2° Edinburgh 天文臺デ, 南38°帶又ハ南40°帶ノ印刷

3° Oxford 天文臺デ, 北32帶°ノ印刷

此等ノ三卷印刷完了ノ後, 他ノ卷ノ印刷ノ順序ハ關係深キ天文臺相互ノ協議ノ上ニテ定ム。(以上, 8月8日)

### 第27委員會〔變星〕

食變星ノ豫報發行ノタメ Banachiewicz 氏ニ交付セラレン補助金ハ今後800金フラン迄續ケラレタシ。(以上, 8月5日)

### 第25委員會〔恒星光度〕

1) 本委員會ハ, 恒星ノ分布, 變星, 外方銀河, 微光小遊星, 微光固有運動星等ノ研究ガ精密ナル光度ヲ必要トスル理由ニヨリ, 光度階ノ小委員會任命ヲ

提言ス。

2) 本委員會ハ標準光度ノ再決定ヲナスタメニ小委員會ノ任命ヲ提言ス。(以上, 8月9日)

#### 第28委員會〔星霧及行星團〕

本委員會ハ光度階ノ小委員會任命ニ關シテ第25委員會ニ賛同ス。(以上, 8月9日)

#### 第29委員會〔恒星スペクトル〕

本委員會ハ、本會假報告第229頁ニ規定サレタル Wolf-Rayet 星スペクトル分類符號ヲ本同盟トシテモ採用シ、各類ヲ  $W_N 7$ ,  $W_C 5$  等ノ如ク記載スルコトヲ決議ス。(以上, 8月9日)

#### 第31委員會〔時刻混合委員會〕

1) 本委員會ハ、1940年一月1日以後ニ於ケル時刻ノ決定及ビ報時無線ノ場合ニ  $F. K. 3$  系ノ恒星位置ヲ採用スベシトノ英國委員ノ提案ニ賛同ス。

2) 本委員會ハ、1939, 1940, 1941ノ各年度ニツキ8000金フランツ、時制中央局ニ支給セラレンコトヲ望ム。(以上, 8月9日)

#### 第33委員會〔恒星統計〕

本委員會ハ、光度階ノ小委員會任命ニ關スル第25委員會ノ提議ニ賛同ス。(以上, 8月9日)

#### 第36委員會〔分光光度〕

1) 本委員會ハ天體物理研究者ガ用フル ランプ 其ノ他ノ器械部分ノ相互比較ノ重要ナルヲ主張ス。

2) 本委員會ハ、北天ニ於テ行ハレタル輝星ノ連続 スペクトル ノ精密光度研究ガ、同様ナル方法ヲ南天ニモ擴張セラレ、微光星ノ研究ニ必要ナル比較星ノ均等ナル系統ガ作ラレンコトヲ提案ス。

3) 分光光度觀測ノ發表ニ際シテハ、傾度ノミナラズ、全強度測定モ亦波長ノ噸數タルベキコトヲ要ス。此ノ方法ニヨリ各觀測者ノ結果ヲ相互比較シ、誤差(分解能度等)ノ影響ヲ調査シ得。觀測ハ成ルベク精細ニ報告シ、後日ノ研究ニ不便ナカラシムルヲ要ス。(以上, 8月9日)